

7月8日～ 平和のつどい

今週は、「核兵器廃絶と平和」について考えたいと思います。

1945年8月6日午前8時15分。世界で初めて使用された原子爆弾により、広島市の人口の約40パーセントに当たる約14万人がその年のうちに亡くなられたといわれています。そのわずか3日後の9日午前11時2分。長崎に投下された原子爆弾では、約7万人以上が亡くなられたといわれています。負傷者を合わせると広島市、長崎市それぞれの人口の60パーセントを超える人が被害に遭われたことになります。

そして身体に傷を負っただけでなく、心にも深く大きな傷を負い、今もなお、後遺症に苦しんでいる人は少なくありません。結婚を相手の家族から反対されたり、職場で「病気がうつる」などの心無い言葉をかけられたりと、被爆者の2世、3世にも渡って、未だ偏見や差別に苦しみながら生活されている人も数多くいらっしゃいます。世界で初めて使用された2発の原子爆弾は、おびただしい数の命と多くの人の日常を奪い、長きに渡って大きな爪痕を残しているのです。

核不拡散条約の発効から50年以上がたちました。この条約は、「核兵器保有国をこれ以上増やさないこと」「核軍縮に誠実に努力すること」を約束した、人類にとってとても大切な取り決めです。しかし、世界には今も1万2千以上の核兵器があると考えられています。

私たちは、二度と核兵器が使われないよう、その廃絶にむけ、平和への意識を高めていくことが大切です。人間の手によって作られた核兵器をなくすために必要なことは、なくしていこうとする私たち一人ひとりの意思です。

丹波市では、恒久平和の実現を願い、戦争の悲惨さや平和の尊さなどを伝えるため、「平和のつどい」を開催します。「平和のつどい」では、被爆体験伝承者が被爆者から受け継いだ被爆体験や平和への想い、併せて被爆の実相などをお話する「被爆体験伝承講話」を8月4日（日）13時30分からライフピアいちじまで開催するほか、7月26日（金）から8月15日（木）の間、原爆投下直後の広島や長崎の様子を写したパネルを展示する「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル展」をライフピアいちじまにて開催します。「被爆体験伝承講話」は事前申込制となっていますので、詳しくは市のHPをご覧ください。

もし戦争が起こり、核兵器が使用されれば、私たちは、再び大きな苦しみを負うことになります。広島や長崎で起こったことを胸に刻み、戦争で犠牲になった方々への追悼と恒久の平和を祈りながら、核兵器に脅かされない平和な世界を創るためにはどうすればよいか、一緒に考えてみましょう。